



「古墳はロマンスの証？」

兵庫県が古墳の数、日本一というのをご存知でしょうか。古墳というと大阪府堺市にある百舌古墳群中の（大仙陵古墳（伝仁徳陵古墳））を想像する人が多いのでは……。大仙陵古墳は日本最大の規模で総面積約 46 万 m²、主軸の長さ 486m で、一人の人間が一日に 1 m³ の土を運んだとして、一日に千人を動員しても完成までに 4 年間はかかったと推定されています。こんなに大きなものがどのように、誰が、何の目的で築造したのか、想いをめぐらしてしまいます。古墳時代の解明は古代日本成立の解明につながります。最近陵墓参考地の調査も一部で始められ、謎多き古墳時代の解明にメスをいれることになるでしょう。

加古川周辺には、現在確認されただけでも約 300 基以上の古墳が存在します。築造の年代は日岡・西条古墳群から聖陵山古墳、そして池尻古墳群へと続きます。日岡古墳群は前方後円墳 5 基と円墳 2 基で構成されています。この地域は旧石器が発見されていますので、約 1 万年前から人類が生活していたことが確認できます。日岡古墳群は古墳時代前期から古墳時代後期に至るまで古墳が存在します。大和・河内を除く地方で、1 カ所に 4 基あるいは 5 基の前方後円墳がまとまって造られたのは、全国的にも数少ない貴重な例です。



さて、加古川北高校の北側には皇后を祀る墳墓と考えられ、現在陵墓参考地として宮内庁管轄となっている通称“ひれ墓”があります。ひれ墓に関する伝説的なものが多く残されています。第 12 代景行天皇は播磨の地にいた印南別嬢に求愛されます。しかし印南別嬢にはフィアンセがいたため、求愛を拒みます。景行天皇はそれでも印南別嬢のことがあきらめきれず、阿閉（現在の播磨町本荘付近）で食事をとられて待ちます。

阿閉はその時の故事に因んだ地名です。印南別嬢は時の天皇からの求愛をいつまでも拒み続けるわけにはいなくなり、高砂の南^なび都^{つま}麻（隠び妻）島に逃げます。それでも天皇は求愛し続けたので、印南別嬢は熱心さに打たれ、ついに六継里（曾根付近）で求愛に応じます。その結果ヤマトタケルノミコトが誕生しましたが、産後の肥立が悪くて亡くなります。当時はまだ火葬（道昭が 600 年に実施したと伝えられる）は実施されておらず、水葬で葬られます。加古川に流された印南別嬢の遺体はつむじ風に煽られ、遺体は消えてしまいます。印南別嬢にまつわるもので残されたものは、装飾品の「ひれ」（現在でいうとスカーフぐらいであろうか）だけだったので、ひれを現在の墳墓に葬ったので、ひれ墓と称されたとされています（「播磨風土記」賀古の郡より）。印南別嬢の遺体はなくなったはずだったが、元フィアンセは彼女のことは忘れられず、遺体の一部を葬ります。播磨町にある愛宕塚古墳がそれではないかとも言われます。

いつも眺めている小丘を伝説を思いながら眺めれば、また違った空間が広がるかもしれませんね。

ぶらり加古川第 5 号

平成 27 年 6 月